

ESDの視点を踏まえた 森林環境教育の普及に向けて 〜森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会〜

近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター



箕面大滝

平成28年5月に閣議決定された「森林・林業基本計画」では、我が国においてESD(持続可能な開発のための教育)の取組が進められていることを踏まえ、小中学校の「総合的な学習の時間」における探求的な学習への学校等の身近な森林の活用など、青少年等が森林・林業について体験・学習する機会の提供や、「木育」を推進することとしており、国有林においてもフィールドの提供等を推進することとしています。

教育現場においては、学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的で深い学び」に取り組むこととされており、体験活動についても重視していくこととされています。また、同じく改訂された幼稚園教育要領等では、幼児期における森林や自然に関する体験学習が重要とされており、平成30年度から施

行されています。

このような中、箕面森林ふれあい推進センターでは、平成27年度から森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会を実施しており、小・中学校の学齢期の教育機関と森林環境教育の活動団体が連携して取り組む事例に焦点を当ててきました。3回目となる平成29年度は学齢前の幼児教育等まで対象を広げ、幼児教育等における森林の活用の成果を共有し、活動団体の役割・幼小連携等について、幅広い関係者が考える機会を設けることを目的に開催しましたので、その概要について以下に紹介します。当日は、教育機関や活動団体など75団体125名が参加しました。

初めに、有識者による3つの講演が行われた後に、活動事例報告として、幼児教育における取組から5事例、小



学校における取組から3事例の報告が行われました。この中で、小学校との連携によって活動団体自体も活性化したことや、地域での繋がりが深まりさらに取組が広がっていること、森の中で子ども達が様々な活動を生き生きと体験し、その体験を通じて子ども同士で考え共同して取り組む姿が見られたことなど、多様な取組とその成果が報告されました。

続いて行われた有識者と事例発表者によるパネルディスカッションでは、事例発表者から森での活動で感じることや連携による変化・保幼小の接続な

ど、それぞれの活動の中で感じている

ことが語られました。有識者からは、「森林・自然が持っている教育力を改めて感じた」、「子ども達が正しく育っていく環境が森林にはあるが、違う環境でどう育てていくかを実践できるかが問われる。だからESDがある」、「活動がESDとして成り立っているかを考えてもらえた。幼児期でしかできないことがあり、森林体験の意義を考えたい欲しい」などの意見が出されました。

参加者からは、
・どの地域も熱心で大変勉強になった、
地域でも活動を進めたい

・連携や接続は考えたことがなかったが、関わり方も考えたい
・色々な事例から自分の中でイメージが膨らんだ
など多くの声が聴かれ、盛会のうちに閉会しました。

以上、平成29年度の森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会の概要を紹介させていただきました。

今後は、これまでの取組の成果を踏まえ、平成30年度以降、3年間の成果を事例集として取りまとめ、教育機関や活動団体等に広く配布することにより、ESDの視点を踏まえた森林環境教育の普及を支援してまいります。また、箕面国有林を活用している多くの活動団体や教育機関とともに、森林E

SDの活動の活性化、連携・協働の強化及び相互交流の進展に繋がりたいと考えています。

※ESDとは「Education for Sustainable Development」の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されている。環境、貧困等の様々な地球規模の課題を自らの課題として捉え、自分にできることを考え、身近なところから取り組むことにより、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会の創造を目指す学習や活動のこと。

森林環境教育（森林ESD）活動報告事例集は、近畿中国森林管理局ホームページをご覧ください



近畿中国森林管理局 高野局長による開会の挨拶



パネルディスカッション



活動事例報告



参加者同士の交流